

## 国道289号の早期全線開通に向けて

# 第9回R289フルコース踏破事業開催！

7月26～28日（26日は出発式と移動のみ）、国道289号の早期全線開通PRを目的に「R289フルコース踏破事業」が行われました。

同事業は、只見高校の1、2年生がいわき市から新潟市までの道のり（約300km）を自転車でタスキリレーしながら走破するもので、今年で9回目の開催となります。また、今年には三条市の高校生5人も参加し、両市町の高校生が交流を深める良い機会となりました（只見高校の今年の参加者は30人）。



▲只見振興センターで出発式が行われた



▲ゴールを目指して走る生徒たち

26日の出発式で菅家町長や三条市役所の太田建設課長から激励の言葉を受けた後、27日朝にいわき市勿来を出発し、同日夕方には中継地点である明和振興センターに到着しました。翌日は、道中にて建設中の八十里越道路の見学を行いながら順調に走行を続け、無事、予定された時間にゴールの新潟県庁へと到着しました。

国道289号の全線開通によって、交流人口の拡大をはじめ様々な効果が得られることが期待されており、1日でも早い全線開通に向け、同事業は今後も継続して行われる予定です。

## 約1,200本の灯火が照らす

# 龍泉寺（布沢）でお地蔵様まつり

7月27日、布沢区の伝統行事である「お地蔵様まつり」が龍泉寺境内で開催され、周辺が約1,200本のろうそくで照らされました。

同行事は、50年前に1度途絶えましたが、4年前に地域の皆さんや布沢区で地域おこし活動を行う宇都宮大学のサークル「D-フレンズ」などが復活させ、以降、毎年この時期に開催されています。

灯火で照らされた風景はとても幻想的で、訪れた人たちはお参りをした後、カメラを片手に美しい景色を楽しんでいました。



▲美しく幻想的な雰囲気が広がる

## 千葉県知事賞を受賞！

### 柏おどりコンテストに参加

7月27日、柏市で開催された「2019 柏まつり・柏おどりコンテスト」に只見町チームが出場し、千葉県知事賞に輝きました。只見町は柏市とふるさと交流都市を締結しており、例年、チームを結成して同イベントに参加しています。当日まで練習を重ねてきた只見町チーム(今年は17人が参加)は、大勢のお客さんの前で華麗な踊りを披露しました。また、会場では只見町の観光PRブースも設置され、訪れた人たちに本町の魅力を発信しました。



▲賞状とトロフィーをいただきました



▲華麗な踊りを披露する只見町チーム

## 海外研修生の皆さんと

### 国際文化交流会を開催



▲交流を深めた皆さん

8月3日、(株)会津工場と(株)ヒロタテクノの海外研修生に対する地区を挙げての受け入れや交流促進を目的に国際文化交流会が開催されました(主催:明和自治振興会)。明和地区は、近年、海外研修生を中心に外国人の皆さんが増加しており、互いに住みよいまちづくりを推進するため、こうした交流会や多文化共生推進協議会などが開催されています。

同会では、只見町の郷土料理を含めた日本食に加え、インドネシアとフィリピンの料理が出され、参加した皆さんは食事を楽しみながら交流を深めました。

## 白獅子旗争奪 第42回福島県児童ソフトボール大会

### 只見スポ少が熱戦を繰り広げる

7月13日、福島民報社と福島県体育協会が主催する同大会の南会津西部地区大会が館岩グラウンドで行われ、只見スポーツ少年団が見事、優勝を果たしました。打線が好調だった只見スポ少は、決勝戦で館岩スポ少を13対0で退け、県大会の切符を手に入れました。

8月3日からいわき市で開催された県大会では、1回戦の善郷・矢吹スポ少に惜しくも敗れましたが(0対1)、大会を通じて素晴らしい活躍を見せた皆さんに会場からは大きな拍手が送られました。



▲南会津西部地区大会で優勝した只見スポ少の皆さん。おめでとうございます！

英語でミュージカル！

## 「オズの魔法使い」を披露

8月9日、町内の小学生たちによる英語ミュージカルの発表会（主催：教育委員会）が只見振興センターで開催され、多くの方が来場しました。英語ミュージカルは、小学生が全力で楽しく英語と触れ合うことを目的に行われており、今年で3回目の取り組みとなります。

参加した児童8名は、ブロードウェイ歌手のクリス・レベンズ氏らの指導のもと、1日4時間を3日間という猛練習を行い、「オズの魔法使い」を立派に披露しました。会場からは大きな拍手が送られ、児童たちは、全力で英語と触れ合う貴重な機会となりました。



▲英語で「オズの魔法使い」を披露した子どもたち

各種体験を満喫！

## 会津只見考古館まつり

8月10日、第3回会津只見考古館まつりが同館で開催され、地域の皆さんや帰省中の子どもたちが来場しました。会場では、三条市長野遺跡から出土した深鉢型土器の展示に加え、毎年恒例となった各種体験コーナーが設置され、来場者は勾玉づくりやむかし遊び（けん玉・めんこ）、火起こしなどの体験を楽しんでいました。

また、三条市との交流体験として、アンギン編み（カラムシ等の植物繊維を使う縄文時代の編み技術）体験や歴史の道八十里越クイズなども合わせて行われました。



▲アンギン編みの仕方を教わる子どもたち

帰省された皆さんとともに

## 各地区で盛り上がりを見せた盆イベント

今年もお盆の時期を迎え、多くの皆さんが帰省されるとともに、8月14～15日には各地区で毎年恒例の盆イベントが開催されました。

只見地区（14、15日）・明和地区（15日）では盆踊りと花火大会が、朝日地区（15日）では朝日「盆」フェスと題し、出店に合わせてカラオケ大会やマジックショーなどのイベントが行われました。

各地区の盆イベントはいずれも多くの人で賑わい、町民の皆さんは思い思いのお盆を過ごしました。



▲明和地区の大盆踊り

※写真のやぐらは、(一財)自治総合センターが実施する「コミュニティ助成事業」の助成を受けて、明和自治振興会が整備したものです（当日は明和青年団が使用）。コミュニティ助成事業は、(一財)自治総合センターが、宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備等に対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するために行っている事業です。

## 長岡藩家老 河井継之助をしのぶ 河井継之助墓前祭

8月16日、「河井継之助墓前祭」(主催：同実行委員会)が医王寺(塩沢)で開催され、町内や長岡市から参列した関係者が没後151年目の命日をしのびました。当日は、菅家町長が追悼の言葉を述べた後、牧野家の17代当主・忠昌さんらが焼香し、前田剣豪会(長岡市)が剣舞を奉納しました。また、墓前祭後には、塩沢集会所で「河井継之助を語る会」が開かれ、参加者が継之助への熱い想いを語り合いました。

来年には、映画「峠 最後のサムライ」の公開が予定されており、歴史資源を通じた長岡・只見両市町の活性化が期待されています。



▲参列者を代表し、追悼の言葉を述べる菅家町長

## 福島大生が講師として来町

### サマースクールで学力アップ!



▲講師として参加した大学生に教わりながら問題を解く中学生(只見振興センター)

8月20～23日、サマースクール(夏休みを利用した学習塾)が各振興センターで開催され、町内の小学生約60人が参加しました。サマースクールでは例年、福島大学で教師を目指す学生が講師として参加しており、今年も9人の大学生が来町して生徒たちにわかりやすく丁寧な指導を行いました。また、町内の高校生も講師として参加しました。

大学生からは、「ただ教えるだけでなく、相手に合わせた教え方や距離の縮め方も意識しなければならないことがわかった」などの声が聞かれ、講師・受講生ともに非常に貴重な機会となりました。



五十嵐 怜史くん  
(小林)



平野 暖真くん  
(小林)



長谷部 君歌さん  
(只見)



中野 一くん  
(只見)

虫歯の  
ない子



(7月30日)  
3歳児検診